



なごみ 日和 vol.21

和水町の活躍している
人を紹介しています

なごみの里協議会

里山の再生を目指して

津田・平野地区の住民を中心に結成された「なごみの里協議会」は平成19年から活動を開始。町民と行政との協働により里山再生に取り組んでいます。

当初は荒廃した山の整備から始まりました。手入れのされていない山で草や竹が生い茂っている状態から活動を開始。大学や民間企業とも協働し、草刈りや竹林の伐採、里道や畑の整備を行い、里芋などを栽培。棚田を再生し無農薬米作りにも取り組みました。猪に田んぼを荒らされたり、放牧していた牛が脱走したりなど、さまざまな困難を乗り越えて現在の里山となりました。平成24年には活動拠点となる小屋を建築しました。

また、定期的にイベントを開催し、さまざまな人や団体との交流にも力を入れています。

学生向けに田植えや稲刈りなどの農業体験や、餅つき、炭作り、たけのこ掘りなどのイベントも開催。和水町では当たり前のように行っていることですが、都

市部では普段体験できない貴重な体験のため好評を博しているとのこと。里山がコミュニティづくりの役割も果たし、町の関係人口増加にも貢献しています。

自主財源確保のための商品開発なども計画していて、将来は、古民家を再生して地域住民が集える場所を作りたいとのこと。

「全国で放置されている里山再生のモデルケースになる」を目標として今後、活動に取り組んでいく予定です。

協力隊活動記 Vol.40

こんにちは！協力隊の野田憲二です。少しずつ暖かい日も増えてきて、過ごしやすい季節になってきました。バイクに乗っていても非常に心地がよいです。

今月のなごみ日和に掲載されているなごみの里協議会の活動に8月から参加しています。先日は炭作りの材料となる木の運搬の手伝いをしました。伐採された木をトラクターで引き下ろす光景は非常に迫力があり、東京に住んでいた時にはまずできない体験でした。また、当たり前のようにチェーンソーを使い、トラクターを運転されている姿が非常に新鮮でした。